瑞泉寺文書（二）

日比野　晃

はじめに

本稿に戴録した文書は、瑞泉寺の蔵の木箱に雑然と収納されていた文書を整理して、抽出したものである。

文書六の犬山地方免定一件は、大小・長短さまざまな二十四枚の一紙ものを、十二支順にこよりで綴じられているもので、このうち六点についてはその年が明記されている。したがって、この一件文書は年次順に綴じられていると考えられ、一七二三年（享保八）から一七四四年（延享一）までの十九年間の書留である。

また、文書一三・一八はそれぞれ三紙・四紙をこよりで綴じられているもので、同事項のものである。

翻刻にあたり、出来るだけ原形をとどめることにつとめたが、読解の便をはかり、次の原則にもとづいて校訂した。

一、適宜に句読点・並列点を付した。

一、漢字は新字体を用い、古字・略字は通行の字体に改めた。

一、宛字・借字・誤字はその右横に（　）をつけて訂した。

一、解読できない文字は□で、また字数が不明の場合は「　」で示し、推定できるものはその右横に（　）をつけて記した。

一、花押は（花押）とし、印章は（印）とした。

一、干支で表記されているもので、年が推定できるものはその右に（　）をつけて年号を記した。

一、文書によっては、その本文などの改行を」印でもって示した。

一、文書の年月日・差出・宛所の位置などは、原文書の体裁を尊重することつとめたが、ある程度の統一を加えた。

一、書写文書、または明らかな控文書は表題の下位に（写）・（控）と記した。

本稿作成にあたり、名古屋市蓬左文庫織茂三郎氏、瑞泉寺松田正道氏から御助力・御協力を頂いた。厚くお礼を申し上げる次第である。

本稿に収録した文書は次の通りである。

一　妙心寺役者衆連署定書（写）　寛永九年三月朔日
二　徳川光友黒印状（写）　寛文七年二月十七日
三　徳川継友黒印状（写）　享保二年十一月十七日
四　瑞泉寺撞鐘鋳直願書（控）　享保三年五月
五　天道社上葺願書　享保二十年七月
六　犬山地方免定覚一件　享保八年～延享一年
七　福之宮修復願添簡（控）　寛延三年七月
八　福宮社修復料勧化願書（控）　明和三年八月
九　天道宮鳥居奉加金請状　安永六年六月
一〇　御物成引下願書　安永九年十二月
一一　福宮修復願注進書（控）　天明六年五月
一二　瑞泉寺宗門改請書（控）　寛政七年二月
一三　延寿堂跡貸借一件　寛政十年二月
一四　延寿堂屋敷借請証文　寛政十年二月
一五　延寿堂永代売渡証文　享和三年九月
一六　福宮社修復勧化願書　文化三年十一月
一七　瑞泉寺鎮守社改書上（控）　文化十一年九月
一八　常夜灯建立一件　文化十二年十月
一九　福宮社修復勧化願書　文政九年八月
二〇　瑞泉寺書上（控）　文政十三年正月
二一　瑞泉寺宗門改請書　天保六年四月
二二　福之宮拝殿修復願注進書（控）　天保八年十一月
二三　福之宮拝殿修復願注進書（控）　天保九年七月
二四　羽黒村興禅寺由緒証文願書　天保十年十一月
二五　長吏共不作法詫証文　天保十一年十月
二六　尾張藩寺社奉行触書（写）　天保十一年二月
二七　瑞泉寺塔頭取調書上（控）　文久二年十二月
二八　瑞泉寺領山内不法入詫証文　文久四年二月
二九　本末寺出入済口請書（写）　慶応二年七月十八日
三〇　瑞泉寺法孫寺院連署書状（写）　甲子二月二十七日
三一　瑞泉寺網代乗用願書　卯正月
三二　瑞泉寺寺格取調書上（控）　酉十一月
三三　瑞泉寺領石高取調書上（控）　巳二月
三四　天道神社・福宮社別社願書　午八月
三五　黒印状下附申渡状　四月八日
三六　黒印状下附申渡状　十月十二日
三七　黒印状下附延期申渡状　十月十九日
三八　尾張藩寺社奉行黒印状改申付状　十一月十一日
三九　尾張藩寺社奉行書状送達状　十月十九日
四〇　承天寺宗甫尋答書（写）　七月十七日
四一　瑞泉寺塔頭書上帳
四二　門守遵守規定

一　妙心寺役者衆連署定書（写）

覚

両開山香資　金弐両
創建忌　銀拾匁
開山忌　同拾匁
関山忌　同拾匁
展待料　金壱両
代香料
飛脚料　同弐両弐歩

右金五両参歩
瑞泉寺末派転位之事
従都寺首座以下、立香於両開山之前、可定位次者也、仍而衆評如件
寛永九年壬申三月朔日

維那　紹伊　判
納所　景源　判
侍衣　寿義　判
侍真　宗登　判

妙心寺
瑞泉寺役者中

二　徳川光友黒印状（写）

當寺領、尾張国丹羽郡犬山本郷之内、五拾石事并門前山林竹木諸役等免除任、慶長六年七月九日・元和七年六月二日両先判之旨、進止不可有相違者也、仍如件
寛文七年二月十七日　御判

瑞泉寺

三　徳川継友黒印状（写）

當寺領、尾張国丹羽郡犬山本郷之内、五拾石事并門前山林竹木諸役等免除之任、元和七年六月二日・寛文七年二月十七日・元禄七年九月十七日・宝永六年十二月十七日先判旨、進止不可有相違者也、仍如件
享保二年十一月十七日　御判

瑞泉寺

四　瑞泉寺撞鐘鋳直願書（控）

覚

當寺撞鐘破損仕候間、右之通ニ山内ニ而鋳直シ申度候、此趣相叶候様ニ奉願候、以上

犬山瑞泉寺

役者　臨溪院

輝東庵

享保三年五月　　臥龍庵

龍泉院

寺社御奉所（行）

五　天道社上葺願書

覚

一、当山下鎮守内田天道之社上葺之儀、村方ゟ別紙願之通相違無御座候間、相叶候様ニ奉願候、以上

瑞泉寺役者

臨溪院（印）

享保弐拾年　　輝東庵（印）

卯七月　　臥龍庵（印）

龍泉院（印）

鵜飼仁右衛門殿

樫原林右衛門殿

（文書裏面に「享保二十一年辰ノ三月、石原孫左術門殿・榎本八郎左衛門殿・中野甚太左衛門殿、文言ハ表書之通ニ相認メ、当テ名ハ如斯ニ致ス」とあるから、この願書は実際には享保二十一年に改めて提出されたのであろう）

六　犬山地方免定覚一件

卯（享保八年カ）年免定之覚

一、高三千四百七拾弐石弐斗五升　本計犬山

此右免三ッ四分七厘

右之内

一、高四百八拾九石八斗弐升五合三勺　横町・上本町　中本町・練や町

内三拾八石四斗一升六合七勺　検見引

残高四百五拾壱石四斗六合七勺　秤免四ッ弐分

一、高三百弐石七斗弐合弐勺　魚（ととう）町　下本町

内三拾四石三斗一升四合八勺　同検見引

残高弐百六拾八石三斗八升七合四勺　同免四ッ壱分五（厘）リ

一、高三百七拾七石六斗三升三合三勺　かちや町・外町　熊の町

内五拾壱石三斗五升弐合九勺　検見引

残高三百弐拾六石弐斗八升四勺　同免四ッ壱分

一、高八百弐拾八石九斗三升三合五勺　鵜飼町・中切　大本町

内百拾三石七斗八升五合八勺　検見引

残高七百拾五石壱斗三升七合七勺　同免四ッ五厘

一、高千四百七拾三石一斗六升五合八勺　寺内町・奈くり町　内田・余坂・木の下

内弐百七拾石六斗六升五合六勺　同検見引

残高千弐百弐石五斗弐勺　同免四ッ壱毛八糸

卯之（享保八年カ）免定

一、四ッ壱分　公議（儀）免

寺免定

一、三ッ九分　寺中

一、四ッ三分　百姓

巳之（享保十年カ）御免定

上、四つ弐分七毛

中、四つ壱分五厘七毛

常住免之定　壱分七毛料簡之上ニ而

三ッ八分　寺中相定

四ッ弐分　百姓方

三、四つ壱分七毛

四、四つ五厘七毛

下、四つ八毛弐糸

（享保十二年）
未免

一、四ッ三分五リ六毛（厘）

一、四ッ三歩六毛

○一、四ッ弐歩五リ六毛（厘）

一、四ッ弐歩六毛

一、四ッ壱分五リ八毛弐糸（厘）

未ノ年当山免

一、三ッ八歩五厘　寺中

一、四ッ弐歩五厘　百性（姓）

（裏面に「享保十二年未ノ免定」・「両ニ壱石五斗六升、分ニ三斗九升」と記載あり）

（享保十三年カ）
申年免定

四ッ弐分壱リ四毛（厘）　上本町・中本町・練や町・横町

四ッ壱分六リ四毛（厘）　魚や町・下本町

四ッ壱分壱リ四毛（厘）　かちや町・外町・熊野町

四ッ六厘四毛　鵜飼町・中切・大本町

四ッ壱厘八毛八糸（四）　寺内町・名栗町・内田・余坂・木の下

右いま多御免定ハ出不申候へ共、者いふ勘定指つかへ候而ハ宜から春と、先達而御勘定方ゟ御知らセニて御座候

（享保十四年カ）
酉年御免定覚

一、四ッ三分四厘三毛　（上本町・中本町・練屋町・横町

一、四ッ弐分九厘三毛　（魚屋町・下本町

一、四ッ弐分四厘三毛　（鍛冶屋町・外町・熊野町

一、四ッ壱分九厘三毛　（鵜飼町・中切・大本町

一、四ッ壱分四厘五毛三糸（寺内町・名栗町・内田・余坂・木野下

十一月廿五日　内田庄屋

（享保十五年カ）
戌年免

一、残高三ッ七分三厘三毛　上本町・中本町・祢りや町・横町

一、残高三ッ六分八厘三毛　魚屋町・下本町

一、残高三ッ六分三厘三毛　かちや町・外町・熊野町

一、残高三ッ五分八厘三毛　鵜飼町・中切・大本町

一、残高三ッ五分三厘三毛弐糸　名栗町・寺内町・内田、余坂木の下

以上

享保十六亥ノ免定

残高ニ四ツ三分三厘三毛　（上本町・中本町・祢りや町・横町
同　四ツ弐分八厘六毛　（魚屋町・下本町
同　四ツ弐分三厘六毛　（かちや町・外町・熊野町
同　四ツ壱分八厘六毛　（鵜飼町・中切・大本町
同　四ツ壱分三厘七毛八糸（寺内町・名栗町・余坂・木の下・内田
右亥ノ十二月七日

（享保十七年カ）
子年御免定覚

一、残高ニ四ツ三厘九毛
一、同　三ツ九分八厘九毛
一、同　三ツ九分三厘九毛
一、同　三ツ八分八厘九毛
一、同　三ツ八分四厘壱糸
右之通御座候、以上
十二月三日　内田庄や

（享保十八年カ）
丑年免定覚

一、四ツ壱分壱厘五毛　（上本町・中本町・練屋町・横町
一、四ツ六厘五毛　（魚屋町・下本町
一、四ツ壱厘五毛　（鍛冶屋町・外町・熊野町
一、三ツ九分六厘五毛　（鵜飼町・中切
一、三ツ九分壱厘五毛九糸（寺内町・名栗町・内田・余坂・木野下
右之通御免定御座候、以上
内田庄や
（享保十八年カ）
丑十二月七日　九兵衛

覚

一、三ツ九分四厘一毛　（上本町・中本丁（町）・練や丁（町）・横丁（町）
一、三ツ八分九厘一毛　（魚屋町・下本丁（町）
一、三ツ八分四厘一毛　（か志や丁（町）・熊野丁（町）・外町
一、三ツ七分九厘一毛　（鵜飼町・中切・大本丁（町）
一、三ツ七分四厘弐毛五糸（寺内丁（町）・名栗丁（町）・内田・余坂・木ノ下
右之通寅年御免定之儀、只今御内意ニ而御知らせ御座候故、如此ニ
書付ニ而申進候、以上
（享保十九年カ）
寅ノ十二月五日　内田庄や

（享保二十年カ）
卯年免定

一、四ツ三厘三毛　上本丁（町）・中切丁（町）・練や丁（町）・横丁（町）
一、三ツ九分八リ三毛（厘）　魚や丁（町）・下本丁（町）
一、三ツ九分三リ三毛（厘）　鍛冶や丁（町）・外町・熊野丁（町）
一、三ツ八分八厘三毛　鵜飼丁（町）・中切・大本丁（町）
一、三ツ八分三厘三毛老糸　寺内丁（町）・名栗丁（町）・内田・余坂・木の下
右之通ニ免定御座候、以上

（元文一年カ）
辰年免定覚

一、三ツ八分四リ九毛（厘）　上本丁（町）・中本丁（町）・練屋丁（町）・横丁（町）
一、三ツ七分九リ九毛（厘）　魚屋町・下本丁（町）
一、三ツ七分四厘九毛　鍛冶屋丁（町）・外町・熊野丁（町）
一、三ツ六分九厘九毛　鵜飼町・中切・大本丁（町）
一、三ツ六分四厘九毛　寺内丁（町）・名栗丁（町）・木野下・内田・余坂
右之通ニ而御座候、以上

十一月晦日　内田庄や

元文二丁巳年公議（儀）免

三ツ七分三厘九毛
三ツ六分八厘九毛
○三ツ六分三厘九毛
三ツ五分八厘九毛
三ツ五分三厘九毛
同巳ノ免定
三ツ四分三厘　寺中
三ツ八分三厘　百性（姓）中
右ハ十二月六日内意免ニ而、内田任常保相済五厘上リニ而相違無之候

（付箋）
一、巳免　内田分
三ツ五分三リ九糸（厘）

覚

巳ノ御免定

一、三ツ七分弐厘九毛　上本町・中本丁（町）・練屋町・横町
一、三ツ六分七厘九毛（厘）　莫屋（魚）町・下本町
一、三ツ六分弐リ九毛（厘）　鍛冶屋町・外町・熊野町
一、三ツ五分七リ九毛（厘）　鵜飼屋町・中切・大本丁（町）・出来町
一、三ツ五分三リ九糸（厘）　内田村・名栗町・寺内丁（町）・余坂・木の下
巳ノ十二月十日

元文三午之公儀免

一、四ッ五厘三毛三糸

一、四ッ三毛三糸

○一、三ッ九分五厘三毛三糸

一、三ッ九分三毛三糸

一、三ッ八分五厘三毛三糸

同巳之寺領免

一、三ッ八分二厘　百姓免

一、三ッ四分二厘　寺中免

右

十二月七日内意免ニ定ム、但悪年ニ而候故、巳之免を用イ、内壱厘引、当年免相定也

午之公儀免　内田分

一、三ッ八分五厘三毛三糸

（元文四年カ）
未ノ公儀免

三ッ九分四毛　（上本町・中本町・祢りや町・横町

三ッ八分五厘四毛　（魚屋町・下本町

○三ッ八分四毛　（かちや町・外町・熊野町

三ッ七分五厘四毛　（うかい町・中切・大本町

三ッ七分五毛九糸　寺内町・名栗町・内田・余坂

（元文五年カ）
申年　内所免

残高三ッ七分五厘五毛

残高三ッ七分五毛

○残高三ッ六分五厘五毛

残高三ッ六分五毛

残高三ッ五分五厘五毛五糸

（寛保一年カ）
酉ノ免
三ッ五分四厘　寺中
三ッ九分四厘　百性（姓）
酉ノ公儀拠免本高
弐ッ八分八厘弐毛
申ノ年ニ八、三分九厘壱毛ノ上リ
十二月五日

（寛保二年カ）
戌免
一、四ッ弐リ六毛（厘）
一、三ッ九分七リ六毛（厘）
○
一、三ッ九分弐リ六毛（厘）
一、三ッ八分七リ六毛（厘）
一、三ッ八分弐リ六毛八糸

寛保三年亥免定
三ッ八分九厘五毛
三ッ八分四厘五毛
○
三ッ七分九厘五毛　中（ママ）
三ッ七分四厘五毛
三ッ六分九厘七毛弐糸
○
百性（姓）免　三ッ七分九厘
寺中免　三ッ三分九厘
十一月

延享元甲子年免定覚
三ッ六分七リ三毛七（厘）（糸）
三ッ六分弐厘三毛七（糸）
㊐
三ッ五分七厘毛七糸（ママ）　壱分弐厘六毛三糸料看之ニ而益定
三ッ五分弐厘三毛七糸
三ッ四分七厘三毛七糸
寺中免　三ッ三分
百性（姓）方免　三ッ七分
十二月九日内勘定

七　福之宮修復願添簡（控）

覚

一、當山下鎮守内田村福之宮修復之儀、村方ゟ別紙願之通相違無御座候、相叶候様ニ奉願候、以上

臨溪院
輝東庵
臥龍庵
龍泉院

寛延三年午七月

大久保郡八殿
高田専右衛門殿
辻村権左衛門殿

（裏面に「廿七日出ス、使僧番」と記載あり）

八　福宮社修復料勧化願書（控）

奉願御事

一、当村福宮社柿屋根及破損、上葺仕度奉存得共得修覆不仕候、何とぞ御当地町方并五ヶ村輪中勧化仕、其助力を以修覆仕度奉存候、願之通り被為仰付被下候ハヽ難有可奉存候、以上

瑞泉寺下鎮守宮守
徳太夫
氏子共

明和三年戊八月

右徳太夫御願申上ヶ候通リ相違無御座候、被為仰付被下候ハヽ難有奉存候、以上

内田庄屋
新左衛門
同断
儀右衛門

高木助右衛門様
吉田文左衛門様

九　天道宮鳥居奉加金請状

覚

一、金百疋　本堂様ゟ

一、銭壱貫文　八筒院様ゟ

〆

右ハ天道宮鳥居為奉加被下置、慥ニ受納仕、鳥居入用ニ相用申候、以上

内田庄屋

安永六年　惣右衛門（印）

酉六月　同断

儀右衛門（印）

瑞泉寺様

一〇　御物成引下願書

乍恐奉願口上之覚

一、私屋敷御存被付候通リ殊外木下ニ而難儀仕候得共、代々住居仕候処、御年貢高定御物成ニて太分（多）ニ御座候得ハ、難勤ニ奉存候、何卒御物成之内、納米三斗御引下ヶ被下候ハヽ難有可奉存候、若ゝ右之御願相叶不申候ハヽ、北屋敷二ヶ私江御付被成被下候様ニ御願申上候、右二品之内何連成共御勘弁（弁カ）之上、相叶申候様奉願上候、恐入候得共殊外不勝手ニ罷成、永々難相勤奉存候、何卒右御願申候通リ被成下候ハヽ難有可奉存候、以上

安永九年　内田屋敷□（処カ）願主

子十二月　儀右衛門（印）

瑞泉寺御年番

臨溪院様

一一　福宮修復願注進書（控）

覚

一、当山下鎮守内田村福宮修覆之儀、村方ゟ別紙願之通相違無御座候、相叶候様奉願候、以上

天明六年午五月　瑞泉寺

寺社

御奉行所

一二　瑞泉寺宗門改請書（控）

指出申一札之事

一、拙僧共、当寺役者相勤候ニ付、切支丹宗門御制禁之旨、従寛文五巳年段々被仰出候御書付之条数、致承知弥吟味仕、右寺留主居之者幷道心者ニ至迄宗旨穿鑿仕候処、怪敷儀無御座候、則其者共之自分手形・寺手形を茂為致取置申候、且又旦方中致吟味判形仕候方々ニ少茂不審成儀無御座候事

一、寺家・末寺其外支配之方右召仕ニ至迄、切支丹宗門相改候処、怪敷儀無御座候、則手形共為致取置申候事

右之趣相違無御座候、少ニ而も疑敷儀御座候ハヽ早速可申達候、若旦方中ニ切支丹宗門之者有之候ハヽ、拙僧共ニ御懸リ可被成候、其節急度申分可仕候、為其仍如件

尾州丹羽郡犬山臨済宗田舎本寺
輪番所瑞泉寺

役者　臨溪院（印）雪潮（花押）
輝東庵（印）関道（花押）
臥龍庵（印）巨分（花押）
龍泉院（印）悠道（花押）

寛政七年卯二月

五味平馬殿
成田貞之右衛門殿　ヲ作ル殿ニ役所ノ案也　此方ヨリ指出ス留ナリ

一三　延寿堂跡貸借一件

延寿堂跡貸地証文之事

当寺引得延寿堂、当時盈有之ニ付、右跡地面東西九間・南北三拾六間、別紙絵図面之通、其村江貸置申候、無所謂而容易ニ取揚申間敷候、為後証仍而如件

寛政十年午

瑞泉寺役院
龍泉院
臥龍庵
輝東庵
臨溪院

内田村
庄屋中

一四　延寿堂屋敷借請証文

延寿堂屋敷証文之事

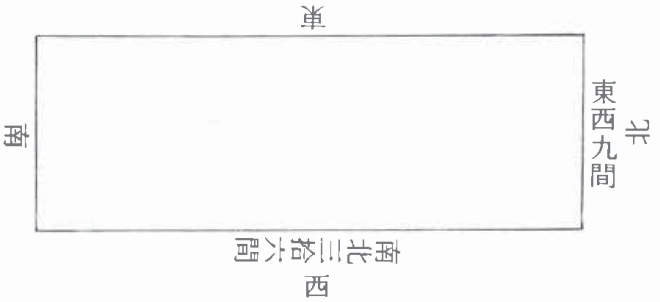
一、物成三斗

右之通、毎年十三日以前ニ急度御上納可仕候、若シ合勺ニ而も及遅滞候ハヽ、此屋敷御引上可被下候、為後日証文手形仍而如件

寛政十年
午二月

内田常八（印）
〃亀八（印）
庄屋新兵衛
同断庄七

御造官
輝東庵様



延寿堂屋敷証文之事

一、物成五斗

右之通、毎年十三日以前ニ急度御上納可仕候、若シ合勺ニ而茂及遅滞候ハヽ、此屋敷御引上可被下候、為後日証文手形、仍而如件

寛政十年
午二月

内田伝八（印）
庄屋新兵衛
同断庄七

御造官
輝東庵様

一五　延寿堂永代売渡証文

永代売渡シ申(延)延寿堂之□(事)

一、金壱両弐歩也　　此藪　九坪

右者御本堂御年貢ニ□永代売渡シ候、代金慥ニ受□貢御上納仕候処実正也、来ル子年ゟ御年貢其方ゟ御上納可被成候、為後日加判証文仍而如件

享和三年　　売主　内田村　助右衛門女子

亥九月　　多　祢（印）

同村

加判

又四郎（印）

龍済庵様

（裏面）

表書之通相違無之者也

修造當番

臨溪院（印）

一六　福宮社修復勧化願書

乍恐奉願上候御事

一、瑞泉寺下鎮守当村福之社及大破候付、上葺仕度奉存候得共、村方困窮仕得(ママ)、修覆不仕候、先年ゟ御願申上、犬山町方近在相対奉加仕、其助力以て修覆仕候、此後大破仕候間、先年辺リ犬山町方近在相対奉加仕、其助力を以て修覆仕度奉願上候、願之通り為仰付被下置候ハヽ難有仕合可奉存候、以上

内田村庄屋　久　八（印）

文化三年　　同断

寅十一月　　九兵衛（印）

村惣代

新　八（印）

一七　瑞泉寺鎮守社改書上（控）

覚

犬山禅宗瑞泉寺控

丹羽郡内田村下鎮守

一、福宮　合祭天道　　一社

祭礼者霜月朔日、一山僧衣諷経仕、天道祭礼八月十二日、右村方者共祭礼致し来候

右境内

一、大県宮　　一社

別ニ祭礼無之、霜月朔日福宮と合祭致し来候

同境内

一、天王宮　　一社

祭礼ハ六月十二日、村方者共献灯仕候

上鎮守　　同寺境内

一、霊亀廟　　一社

祭礼別ニ無之、毎月七日・廿一日僧衣諷経仕候

右之通相違無御座候、以上

文化十一年戌九月

龍泉院
臥龍庵
輝東庵
臨溪院

一八　常夜灯建立一件

奉願□（上候）覚

一、当村中之者共心願有之候而、大神宮江常夜灯建立仕度、就而ハ御境内□（川）途垣外ニ而夜灯敷地壱丈四面拝借仕度候、右之通拝借被仰付被下度奉願上候、以上

内田村

文化十二年
□（亥）十月

庄屋　仲右衛門（印）
同断　久　八（印）
百姓代　新　八（印）

瑞泉寺
御役寮

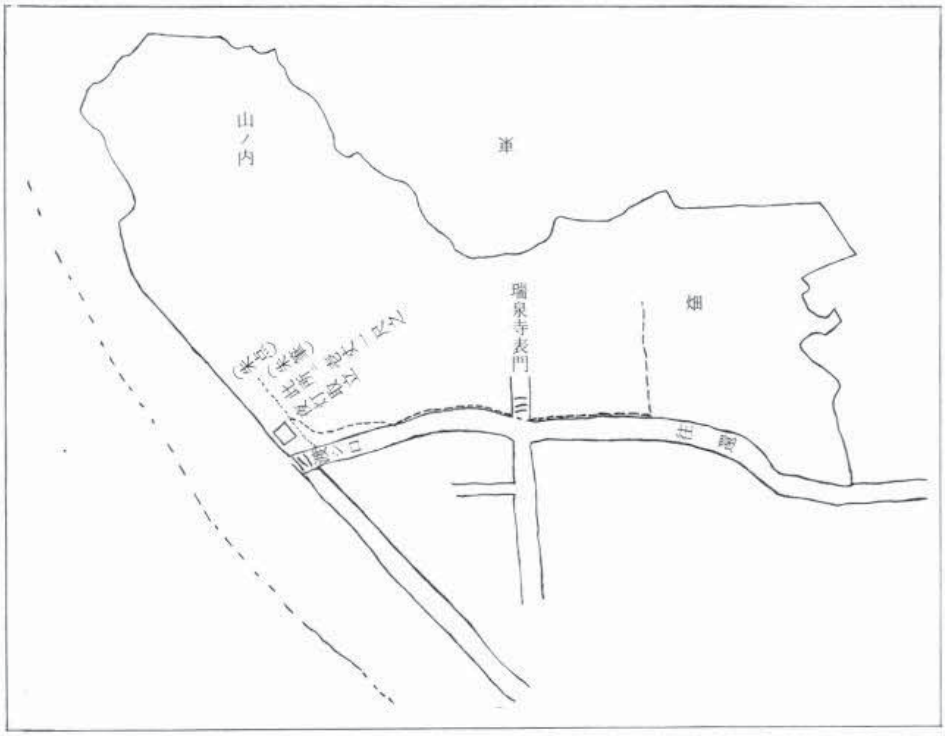
奉願□

一、内田村中之者共心願ニ而、大神宮江常夜灯一基、当山境内川途垣外、別紙図面之地所ニ建立仕度、依之永代地面壱丈四面借受申度旨、尤灯火始末ハ村中ゟ取計候而双方納得、地所借呉候様右村庄屋共願来候、何方ニも差障之筋も無御座候間、任願貸遣申度、此段奉願候、右願之通相叶候ハヽ忝可奉存候、以上

犬山瑞泉寺
役寺
臨溪院
輝東庵
臥龍庵
龍泉院

文化十二年亥十月

寺社御奉行所



其寺境内川途垣外ニ」内田村中之者共依心願、伊勢大神宮常夜灯」壱基取立度旨申聞」候付、壱丈四面永代地所貸遣度旨願之通承届候

十月晦日

一九　福宮社修復勧化願書

乍恐奉願上候御事

一、瑞泉寺下鎮守当村福宮之社、及大破候付、上葺仕度奉存候得共、村方困窮仕得修覆不仕候、先年ゟ御願申上犬山町方近在相対奉加仕、基助力以テ修覆仕度奉願上候、願之通被為仰付被下置候ハヽ、難有仕合ニ可奉存候、以上

内田村庄屋
久左衛門（印）
同断
三　平（印）
村惣代
武　八（印）

文政九年
戌八月

瑞泉寺
御造官様

二〇　瑞泉寺書上（控）

青龍山瑞泉寺者応永廿弐□（乙未）年ニ日峯大和尚開基ニ而、在住十七八年之間ハ不及申、滅後百年之間ハ実ニ国中無双之名籃（藍）ニ而、日本之為禅侶者、乾山之法窟ニ不登者者宗門之僧とハ言須と申伝候、当山三世雪江大和尚之法語ニも本寺と唱被申候、信長公之公状ニも関山派本寺と御座候、応永己卯年ゟ永享之初迄三十年計り之間、妙心寺悉く衰微・破滅仕、漸只今之開山塔而已残居申候、仍之派中之諸老ハ勿論、五山之□ニ依而、日峯大和尚妙心寺江移転ニ相成、諸堂再建ニ而美麗ニ相成候、妙心寺ニおゐて日峯大和尚を中興開山と唱申候、凡日本国・琉球国迄も妙心寺派下之寺院ハ都而当山之開山日峯大和尚之法孫ニあらさるハ一宇も無御座候、只今ニ至り妙心寺繁栄仕候も皆瑞泉開山之余光ニ而御座候、諸国之法孫一同承知仕候事ニ御座候、右故ニ瑞泉寺ハ格別之古道場や外々ニ類例無之寺ニ御座候、□（則）一山ニ役寺と申ハ雪江大和尚之弟子景川・悟溪・特芳・東陽之四大和尚之塔主ニ而御座候、妙心寺ニおゐ亭も瑞泉寺之例ニ習ひ、右四大和尚之塔主之院を四本庵と唱申候、日本国中関山派紫衣之諸老、当山へ順次輪番勤務有之事当山開山之遺命、且ハ為報恩や縦令黒衣之長老（○往古ハ）ニ而も致請待準一世輪番勤務有之候、但為報恩瑞泉住□（番届）之儀も有之、志願を不果相果候節ハ□（其）後住嗣法之者ゟ当山江願出次第山中四派評議之上、開山任遺命往古ゟ仕来ニ而当山準一世職状致降下候寺例ニ御座候、右格別之古道場故妙心寺ゟも開山遠忌

其外破損所・修覆等之節ハ先年夫々願助勢申候得共、只今ニ而ハ一向其儀無御座候、寛政九年巳ニ日峯大和尚三百五十年忌、文化六年巳ニ無因大和尚四百年忌両度共助資無御座候而迷惑仕候

右之通申上候少も相違無御座候、以上

文政十三年　　瑞泉院

寅正月　　役寺　龍泉院

〃　臥龍庵

〃　輝東庵

〃　臨溪院

寺社御奉行所

兼松又兵衛殿

芦沢藤蔵殿

△尾州表

願書也

二一　瑞泉寺宗門改請書

一札

当未年切支丹宗門僉議、召仕并寺中之輩・寺家末寺支配方迄相改候処、怪敷儀無御座候、不審成儀御座候ハヽ早速各迄可申達候、為其如件

天保六年未四月

犬山瑞泉寺　（輝東庵の印）（印）

役寺　臨溪院（印）

輝東庵（印）

臥龍庵（印）

龍泉院（印）

二二　福之宮拝殿修復願注進書（控）

覚

当山下鎮守内田村福之宮拝殿修覆之儀、村方ゟ願之通相違無御座候間、相叶候様奉願候、以上

天保八年　臨溪院
酉十一月　輝東庵
　　臥竜庵
　　龍泉院

寺社奉行所

（裏面に「天保八酉十一月、内田村ゟ之願書ト一諸差出」と記載）

二三　福宮拝殿修復願注進書（控）

覚

当山下鎮守内田村福之宮拝殿修覆之儀、村方ゟ願之通相違無御座候間、相叶候様奉願候、以上

天保九年　瑞泉寺
戌七月

寺社御奉行所

二四　羽黒村興禅寺由緒証文願書

奉願候御事

当時開基之儀ハ大旦那梶原平三景時ニ而、開山之大導師ハ大道真源禅師東陽大和尚ニ御座候、依之景時子孫菩提所由申伝候らへ共、往昔兵火之為古記録等焼失仕、右由緒年月等委儀相分不申候、其後星霜を経、慶長年ニ至り殿宇悉及衰破候処、其頃犬山之城主小笠原和泉守殿御帰依尓而殿宇夫々再建有之、其上当寺境内地子并山林竹木免許之御証文、同郡善師野村禅龍寺連名ニ而被下、依之其砌伊奈備前守殿御検地之節、寺内弐反七畝歩ニ相究、和泉守殿御証文之通弥寺内御除地ニ相成、尤其節御証文被下候哉之儀ハ難相分候得共、和泉守殿御証文之儀者先年より当寺ニ所持仕居、先々ゟ御改之節々委御達申上置候儀ニ御座候、就夫右御証文之儀ハ当寺由緒之要規ニ而格別大切之品ニ御座候処、若此已後水火災等之為欠失仕候而ハ末々由緒空相成、寺務相続方ニも差障可申哉と年来心配仕候儀ニ御座候、付而者恐多御儀御座候得共、右由緒格別之訳を以、猶更此節御証文被下置候様仕度奉願候、尤小笠原家并ニ旦方村中納得仕、何方ニ而も小茂故障無御座候間、右願之通被仰付被下候様常住諸猝(ママ)事禅師被御願可被下候様奉願候、已上

天保十年　羽黒村
亥十一月　興禅寺（印）

拝晋

瑞泉寺塔頭

臨溪院

侍史

二五　長吏共不作法詫証文

一札

去廿四日夜、御山守藤助宅江長吏共推参仕、不作法之致方并場所柄を不相弁、其御筋江御伺も不仕、手込ニい多し方不届之始末、御利解被仰付聞、彼等一言之申訳無御座奉恐入候、今般不調法之段御免ニ成下置候ハ、今後急度相心得御寺法、為相背申間敷候、為後日仍而如件

天保十一年子十月

上本町
万屋
彦兵衛（印）

瑞泉寺

御役院様

二六　尾張藩寺社奉行触書（写）

覚

一、従先年段々相触候通、切支丹宗門之儀、寺院・旦方并召仕之輩寺領之百姓・懸り人等至迄、弥堅吟味可有之事

一、廿四箇條并五箇條物之品々、弥堅吟味可有之事

一、寺院・常塔以下他国他領之旦方より修造等之儀有之欤、或者新規之建立、或ハ急度仕多類什物・宝物等寄進有之者、其品当奉行所江可相達之事

一、寺院無住之節、後住相願候儀、或者法縁之筋目と号し、又者旦方納得之僧ニ候得ハ、不抱器量申立居置之候、依之可然僧も少く不覚悟不行跡之輩も往々出来候、自今以後ハ本寺法類旦方ともに遂吟味、未熟之若僧行跡難見届僧侶ハ後住之願不可相達之事

一、常々支配寺家・末寺之法儀不吟味ニ致し差置、寺・末等之内ゟ不行跡之輩於出来者、本寺不存知之旨申分ヶ者難立可為越度事

一、寺院新規之地子家造り度願之儀、格別之子細無之候而者、相願候儀可為無用事

一、寺院控之地子、門前等之町屋江隔之垣壁等弥堅仕置、在家江閑道より不可致出入事

一、於寺院、及夜陰談儀・説法不可致、并物読・講釈と号し、惣而夜中ニ人集不可仕事

一、寺院惣而親兄弟多りといふとも女人不可差置、并庫裡姥一切不可抱置候、自今以後右之族有之由相聞候ハヽ、被遂御吟議、急度可為重料事

一、寺院江夜ニ入、女人参詣之儀不可有之、但不叶子細有之而出入之儀者、可為格別事

一、惣而年若キ比丘尼ニ袈裟を免し、仏法修行と号し寺院江之出入不憚之体ニ候、右之類之疑敷仕方有之候者、急度可遂吟議候、并寺院近辺比丘尼之居所、相対尓て拵置、比丘尼相集寺院江出入仕候儀、可為無用事

一、薬師并庚申之縁日等、夜ニ入参詣之輩可限亥刻、右之時刻相過候ハヽ可鎖門扉事

一、他所之客僧、寺院ニ為致滞留候儀、一宿ハ不及届候、於及両日者、其品奉行所江可相断事

一、江戸并江戸近国江用事有之而於罷越者、立帰之日数ニ御とも、必当奉行所江相断、可随指図事

一、寺院内之竹木、恣ニ不可伐採候、不叶子細有之者、当奉行所江可相達事

一、惣而沙門ニ不似合俗方ニ立交、肝煎・請合等之儀、可為無用事

右之條数、従先年申渡候通、弥堅可被相守之候、違背之族於有之者、奉行所ゟ隨見聞而可遂吟議者也

天保十一年子二月　　長野久兵衛
　　鳥居五兵衛

二七　瑞泉寺塔頭取調書上（控）

御達申上候御事

一、当山之儀者往古佐右衛門治郎開基之節者、寺領千七百石余ニ申伝并下馬札外繋等有之由、本拠不祥（詳）候塔頭者

慈明庵・紫雲軒・大仙軒・得意庵・南栄院・要津院・冨春院・自得院・慶雲庵・大有庵・保福庵・竹雲庵・得月庵・雲授庵・蕉雨軒・宝林院・宝珠庵・吸江庵・喜雲軒・松鶴（鶴）庵・霊亀廟・錦鏡亭・侍真寮・書院・雲堂・茶堂・大庫裏・玉堂・衣鉢門・山門・経堂・僧堂・祠堂・薪屋・大疑庵・延寿堂

右三拾六ヶ所、天文年中兵火ニ而致焼失、只今ニ而者空名而已唱来申候

但し、慈名庵・延寿堂

右二ヶ所者只今尓而も御黒印地之内ニ而当山江控居申候

右取調書上候通相違無御座候、依之御達申上候、已上

丹羽郡犬山
関山派
瑞泉寺
寺社奉行所

文久二年
戌十二月

控

二八　瑞泉寺領山内不法入詫証文

指上申証文一札之事

一、今般御控山之内江謀込(ママ)、御目ニ留リ、其御筋江御差出ニ不相成候様御利解被仰付、重々奉恐入候、以来当人者不及申ニ親類之者ニ至迄一切入込申間敷候、若背之者御座候ハヽ何体ニ茂被仰付候、為後日之連印証文指上申処如件

文久四年
子二月

親類　長右衛門（印）
同断　文　治（印）
掛合　勝　蔵（印）
又四郎（印）

瑞泉寺
御役寺様

二九　本末寺出入済口請書（写）

御裁許請書之写

京妙心寺ゟ同所東福寺江相掛芸州船木村永福寺本末之義を申立候出入、再応被為遂御糺明候処、訴訟方之儀、同寺者元来古跡之処、寛文之頃仲芳与申者再興い多し、同人願之上属末以多し候与の儀者申候迄ニ付、難御取用相手方之儀、右永福寺者諸山官地ニ而公帖茂被成下寺柄之由難申立、公帖之義者安芸之国永福寺者同寺号而已ニ而、前ゝ被成下候儀ニ付、右を以今般申争候永福寺とも難御差定、右者仮令同寺ニ而も宝永度以来代々之住僧妙心寺ニお以天転位掛籍い多し来り候を、従来等閑置、今更東福寺方江引戻し度との申分者難相立、依之以来永福寺之儀、東福寺ゟ公帖相願候節者、伍旧例可被成下候得共、住職進退者妙心寺可為指拝、都而双方是迄仕来通相心得、再論いた春間敷候段被仰渡、一同承知奉畏候、仍而請書証文差上申処如件

京妙心寺役者　天祥院
訴訟方
同東福寺役者　未雲軒
大雄代兼
相手方　同聚院

慶応二寅年七月十八日

寺社
御奉行所

前書被仰渡之趣、拙僧共儀も罷出奉承知候、依之奥書印形差上申候

触頭
海禅寺
金地院役者
月心

三〇　瑞泉寺法孫寺院連署書状（写）

欽啓上

華歳之法令四海一統至祝珎重、先以各座下□（尊カ）履万福可被長、法算奉祝察宗幸之至奉存候、然者尾州犬山瑞泉寺四方五里之法孫、毎年両祖諱随意出頭之御触ニ付、去亥秋ゟ御断之御願上候処、及御会評御記録ニ茂畢竟随意之御儀被仰下候上ニ、又々御断御願上ヶ、本山迄重々御苦労、瑞泉寺江対候而も気之毒ニ奉存候得共、従本山方五里之御触ニ而尤五里外方寺院者拙寺等ニ不相限儀故、為念去秋村役人道法里数之書付差上御断申上候儀ニ御座候、右里数之儀、尚又村役人江相尋候処、私ニ相定候訳ニ而無之、御公用相務候為メ古来相定リ有之候、若里数不分明様ニ御座候而者以後御公用等妨之筋ニ罷成候間、何分里数無相違訳分明ニ相立候様ニ可被成段申候、就夫拙寺等之内、尾州領者御国法御座候ニ付、今度本山江御断申上度段尾府御役所江付届仕候処、御国奉行衆之掛リニ罷成、再三村役人御召呼御吟味之上書付等差出無相違段御聴届ニ而、本山江御断之儀勝手次第者被仰渡候、右里数之儀、去秋差上候村役人書付之通無相違、尾府表も右之通ニ御座候処、五里内之院幷ニ被仰付候而者、里数之儀胡乱成様ニ相聞へ、村役人も右之通候故、御領主幷村役人江対候而拙寺等甚迷惑ニ奉存候、依之無拠再往御願申上候間、何分右之趣御聴届被遊、五里外之法孫幷ニ被仰付被下候様ニ、本山表宜御取成奉希候、

誠恐敬白

甲子
二月廿七日

小林寺　祖円　判
道樹寺　祖芳　判
永昌寺　祖海　判
大智寺　良伯　判
慧利寺　古格　判
龍福寺　霊樹　判
長春寺　元孤　判
永林寺　祖銛　判

拝進

大道大和尚　雑華丈室　大雄丈室　桂春丈室　蟠桃丈室　隣華丈室

追啓、去冬以連書申上候通、当春早速御願可申上奉存候処、尾州表各ニ侍右御吟味段々隙取延引ニ罷成候、尤拙寺等之内壱人登山可仕儀ニ候得共、無拠担用等差支御座候

右乍略儀道樹寺塔頭智勝院差登セ申候、以上

大清寺来書之意趣同様之事故、其写令省略候、以上

三一　瑞泉寺網代乗用願書

奉願御事

一、当山開山者京都妙心寺中興開山ニ而、関山派為本寺由、古来之御朱印等ニ茂有之、依之開山遷化後三百年以来、紫衣之和尚方日本一同ニ四派之輪番所ニ而、乗輿并網代乗物等古来ゟ所持仕候、尤名古屋御年礼其外臨時登城之節、単寮ニ而茂開山之名代故、宗門中之位頭ニ而御礼申上候、右網代乗物向後単寮ニ而相用候寺格ニ被仰付被下候ハヽ忝可奉存候、以上

瑞泉寺役者

臨溪院（印）
輝東庵（印）
臥龍庵（印）
龍泉院（印）

卯正月

寺社
御奉行所

三二　瑞泉寺寺格取調書上（控）

覚

一、寛文二年寅ゟ午迄六ヶ年之内、遷住和尚方之内、殿様御年礼被相勤候、年号書付ハ無御座候、併被相遷候得ハ御黒印地ニ而御座候間、被相勤候由と奉存候

一、御年礼御願相済候、日限之義、乍勿論書付等無御座候、古来ゟ御年礼相勤来候、已上

龍泉院　印
臥龍庵　〃
輝東庵　〃
臨溪院　〃

酉十一月

三三　瑞泉寺領石高書上（控）

御達申上候御事

御黒印地御高外

一、高五拾四石三斗七升八合　瑞泉寺

但シ定免三ツ三歩

右之通相違無御座候、以上

犬山瑞泉寺役寺
輝東庵

巳二月

社寺御奉行所

三四　天道神社・福宮社別社願書

乍恐奉願上候御事

当村天通神社ハ当村之産神ニ而御座候処、慶長年中及大破候ニ付、瑞泉寺之下鎮守福宮社江合殿ニ仕候処、追々次第ニ村中困窮仕候茂、産神之社ヲ取壊寺之鎮守之合殿ニ祭候儀、不本意ニ相当候欤ニ奉存、村中之者共甚以奉恐候間、何卒左之通別社ニ仕度奉願上候、尤村中納得仕少茂故障之儀ハ無御座候間、御慈非を以奉願上候通被為仰付被下置候ハヾ、難有仕合奉存候、以上

午八月　　内田村　百姓中

同所庄屋　儀左衛門（印）

同断　惣左衛門（印）

瑞泉寺

評役者様

（裏面に「此願相済不申候、御役所ゟも返却也」と記載）

三五　黒印状下附申渡状

猶々、病気・指合等ニ而不出候ハヾ、来ル十二日」朝五ッ時迄ニ寺社奉行所江書付を以」可被申達候、己上

一筆申入候、」御黒印被下置候間、来ル十三日」朝五ッ時登」城可有之候、勿論右之刻限」無遅滞様可被相心得候、」恐々謹言

四月八日　　鳥居五兵衛　賢知（花押）

長野久兵衛　祐寿（花押）

丹羽郡犬山

瑞泉寺

（外封）

丹羽郡犬山

瑞泉寺

（朱筆）申下刻出

長野久兵衛

鳥居五兵衛

三六　黒印状下附申渡状

猶々、病気・差合等ニ而不出候ハヽ、来ル」廿二日朝五時迄ニ寺社奉行所江書付を以」可被申達候、以上

一筆申入候、」御黒印被下置候間、来ル」廿三日朝五時登」城可有之候、勿論右之刻限無遅参様可被心得候、恐々謹言

間島万治郎
冬道（花押）

十月十二日

竹中彦左衛門
重順（花押）

丹羽郡犬山
瑞泉寺

（外封）

丹羽郡犬山
瑞泉寺

竹中彦左衛門
間島万治郎

（表）

ひわ小牧橋爪ゟ
可相届者也（印）
御勘定所

（裏）

三七　黒印状下附延期申渡状

猶々、病気・差合等ニ而不出候ハヽ、来ル」廿五日朝五時迄ニ寺社奉行所江書付を以」可被申達候、已上

来ル廿三日、」御黒印被下置候筈申入置」候処、同日之儀ハ御差支ニ付、」来ル廿六日被下置候間、同日朝」五時登」城可有之候、仍申入候、已上

十月十九日

間島万次郎

丹羽郡犬山
瑞泉寺

（外封）

丹羽郡犬山
瑞泉寺

間島万治郎

亥中刻出（朱筆）

三八　尾張藩寺社奉行黒印状改申付状

御代々被下置候」御黒印、此節相訂置筈候、」付而ハ右」御黒印、来ル十八日四時より」九時頃迄ニ当奉行所江持参可有之事

但、」御先代様ゟ被下置候」御黒印而已入念弐通」写之、紙品之儀、壱通ハ」御本書之通相認、壱通ハ」上美濃紙ニ認可被差出」候事

一、病気等ニ候ハヽ、以代僧可被」差出候事

十一月十一日　　寺社奉行所

別紙書付壱通差越之候、」以上

十一月十一日　　生駒頼母

犬山瑞泉寺

（外封）

犬山瑞泉寺　　生駒頼母

（表）

此状小牧より

可相届者也（印）

御勘定所

（裏）

三九　尾張藩寺社奉行書状送達状

右急御用状壱通、無滞」可相届者也

十月十九日　　寺社奉行所（印）

（朱筆）亥中刻出

丹羽郡犬山

瑞泉寺

名古屋

小牧ゟ

大田屋

（外封）

（朱筆）刻付

証文

四〇　承天寺宗甫尋答書（写）

御尋ニ付奉申上候

一、去春不肖大顚之節、自心願ニ而尾州瑞泉寺ゟ住持職書付頂戴仕候ニ相違無御座候

一、瑞泉寺ゟ書付頂戴仕と茂、色服着用致候儀ニ無御座候

一、瑞泉寺住持職贈号、死後之□（官カ）候得者、色服等着用可致筋無之義と存候

一、不肖義、一代之心願ニ而寺地を引、巌窟を致平均、諸堂不残建立仕候得者、只牌名等改メ置申候度義ニ御座候

一、不肖義ハ栄曜（耀）栄花（華）・奢ヶ間敷事決而嫌ニ御座候

右之通リ御尋ニ付奉申上候処、相違無御座候、以上

七月十七日　　承天寺

拝晋　　章鳳

大雄院　　宗甫

侍史

四一　瑞泉寺塔頭書上帳

瑞泉寺塔頭

景川派本庵

龍泉院

一、当院之儀者、最初応仁二子年本寺第七世景川大和尚建立ニ御座候、仍之当院を景川派之本庵と申候

一、本尊、釈迦如来木仏座像　　壱体

一、当院三代目清蔵主儀、中川勘右衛門甥ニ而、天正十二年甲申三月三日、犬山城主中川勘右衛門定成、勢州峯之城江出陣之留守を預りし処、池田勝入斎大垣より同月十三日之夜、当城之西溪より責入し故、清蔵主僅之勢ニ而討て出、一騎当千之働を奈すといへども、多勢ニ不叶して終ニ坂口丹て討死すと申伝候

一、去ル天保十一子年、右清蔵主墳墓之石垣積ミ直し候処、土中ゟ棒之如太刀壱振掘出申候、長三尺余

同　塔頭

龍済庵

一、当庵之儀、最初宝徳二庚午年雲谷大和尚建立ニ御座候、雲谷者本寺創建被致候日峯之弟子ニ而、本寺第四世之住職ニ御座候

一、本尊、十一面観音木仏座像　　壱体

同　塔頭
妙喜庵

一、当庵之儀、最初永享十戊午年本寺第六世義天大和尚之弟子雪江大和尚之建立開基ニ御座候

一、本尊、釈迦如来木仏座像　壱体

同　塔頭
特芳派本庵
輝東庵

一、当庵之儀者最初文明元丑年、本寺第九世特芳大和尚建立ニ御座候、仍之当庵を特芳派本庵と申候

一、本尊、釈迦如来木仏座候　壱体

同　塔頭
南芳庵

一、当庵之儀者最初文明十七巳年、本寺第十二世天縦大和尚建立ニ御座候

一、本尊、観音木仏座像　壱体

四二　門守遵守規定

門守江申渡之規定

一、昼夜門番所ニ相詰、朝夕惣門締方無解怠可相守
但、毎月四・九日惣門内外掃除不可怠事

一、御本坊勤向可致篤実事

一、祠堂其外御会合之節、御引取リ跡ニ而火之用心等念入相廻リ可申事

一、山門諸老和尚方始小僧衆ニ至ル迄無礼無之様、途中御目通リ之節可致会釈事

一、大風雨之節者勿論、平生ニ而茂御制札倒存亡無是様見廻リ可申事、井山林倒木等無之哉時々見廻リ可申事

一、両開山忌之節、四五日以前御用向等修造副司江伺可申事

一、盆・正両度之暮、山内江礼廻リ可致事

一、盆・正井両度之開山忌之節、石櫃(檀)上之灯篭灯シ可申事、井盆・正御定式之節者鐘楼呼物等受持之事

一、近火之節ハ御本坊江相詰可申事

一、毎年大晦日夜廻リ其外臨時夜廻リ被仰出候節者相勤可申事

一、年内御定式御用向節々無怠可相勤者也

一、御本坊山内之様子、他人ハ勿論雖為親族、是非共諷評致間敷候事

右之條々違背無之様相勤相守可申者也

評席